

淀の絆

平成 31 年 3 月 吉日
美豆小学校 高嶋 登
明親小学校 緩詰 研二
大淀中学校 脇坂 満

大淀学区小中一貫教育「人権教育広報誌」大淀中学校区 3 校人権教育部会 不定期刊

日頃より大淀学区 3 校の教育活動推進の為、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。2 小 1 中で構成される大淀学区は、教育活動の大きな柱に「人権教育」を置いています。明親小学校、美豆小学校の 2 小は人権学習の内容やねらいの連動を図り、同じ中学で学ぶ子どもたちに、同じ「人を大切にする心」の礎を築こうと取組を続けています。

保護者や地域の皆様のお力をいただき、児童・生徒の「心の教育」を進展させていきたいと考えています。3 校の「人権教育広報誌『淀の絆』」をお届けいたします。是非、ご一読、ご高覧をお願いいたします。

「大淀中学校 平成 30 年 12 月 『ヒューマンタイム講演会』」

ー 「前例がなければ作ればいい」 声楽家 青野浩美さん ー

声楽家をめざす青野さんは 23 歳のとき、原因不明の神経性難病を発症します。手足がうごかず、親の介護を受けなければ食事も、ベッドから起き上がることもできない…。その日をさかいに生活は一変し、半年の入院生活をよぎなくされました。懸命のリハビリの甲斐もあって、食事もベッドからの寝起きも一人でできるようになり、車イスでの生活も可能になった青野さんは再び「歌いたい」という強い思いを抱きます。

しかし、更なる困難が待ち受けていました。無呼吸発作に見舞われるようになり、医師は彼女に「気管切開」をしなければ命の保証ができない」と告げます。しかし、気管切開をすることは「声」を失うことになる。葛藤で手術に踏み切れない中、命と声を天秤にかけていることを友人に叱責された青野さんは手術を決意。医師と何時間も話し合いを重ね、スピーチカニューレという医療機器を使えば声が出る可能性があることを知ります。ただし、「話すことはできたとしても、歌手活動は無理でしょう。そんな前例は聞いたことがありません。」というのが医師の判断でした。しかし、青野さんはこう思います。「良かった！歌おうと思った人がいないというだけで、不可能と思われたわけではない。前例がなければ作ればいいんだ！」と。

綺麗な、そして力強い歌声でした。ハンディがあるととても感じさせない、透き通るような…。でも、それでいてずんとからだの芯に響いてくる力強い歌声…。圧倒的でした。明るく時に冗談をまじえながら、自身のことを話してくれる青野さん。その内容は深刻で、きっと自身、ずっと苦しい思いをしてきたのに、きっと何度もやりきれない思いにとらわれただろう筈なのに、でもその歌声は、大丈夫。あきらめなければ不可能はくつがえすことができる。と、何よりも確かに言ってくれているようで、説得力がありました。

講演のなか、「世界にひとつだけの花」を歌う場面がありました。「知ってるやんな」と青野さんが誘います。はじめは小さな声でした。…でもやがて大きくなり、そしてついには体育館全体に響く歌声となったとき、つよく私の胸をうちました。本当に良い講演会でした。

青野さんが最後に話してくれた言葉です。

「こういう風に思えるようになったのは友達・家族の力が大きな力になった。

皆さんにも友達がいる。先生がいる。家の人がいる。地域の人達がいる。一人じゃない。

つらいことも一人で抱えず、仲間や先生や家の人、地域の人に相談しよう。きっと良い方向に進むよ。」

<美豆小学校 12月人権月間「仲間の木」の取り組み>

12月の人権月間には「みんななかよし」というテーマの下、学級の仲間一人ひとりの良いところについて考える「仲間の木」を作成する学習に取り組んでいます。

この「仲間の木」の学習は「人を大切にする心」、つまり『友だちを大切にする心』だけでなく、『自分を大切にできる心』、その二つの心に触れることができると考えています。子どもたちは、友だちの良いところを見つけることで、とても笑顔になります。『友だちの大切さ』を知り、友だちから自分の良いところを見つけてもらうことで、自分だけでは気づくことのなかった『自分の大切さ』を、感じることでできる学習となっています。



人権集会の取り組み（10月）

美豆小学校では、道徳の学習や道徳教育の中でも子どもたちの「人を大切にする心」を育てていけるよう取り組んでいます。今年度も、学級だけでなく学年全体で意見を交流したり、様々な学年の仲間と共に多様な考え方に触れ、広い視野で仲間を見つめたり、自分自身や仲間を大切にしようとする気持ちを高めたりすることができるように「人権集会」実施することにしました。低学年・中学年・高学年ごとに教材を合わせて、子どもの実態に合わせて、2学年合同で取り組んだり、学年全体で取り組んだりしました。

テーマ ～友だちを大切にできていますか？どんな友だちでいたいですか？～

低学年（1・2年）は、学年ごとに取り組みました。絵本「ごめんねともだち」をもとに、喧嘩をしていたきつねとおおかみが、最後になかよくなれたのは、どうしてなのかを考えることを通して、学年の友達に目を向け、友だちと仲良く過ごすための言葉について考えました。実際に子どもたちが自分の言葉で考えて、意見を交流しました。



中学年（3・4年）は、2学年合同で取り組みました。「絵はがきと切手」のお話をもとに、本当の友だちについて考えました。このお話は、友だちから届いた絵葉書の切手代が不足していて、主人公がそのことを友だちに伝えるかどうか葛藤しているというお話です。主人公の葛藤を通して、友だちに伝えるべきかどうかを考えましたが、どの意見も相手のことを考えたものでした。2学年一緒に取り組んだことで、新しい考えを持つことができました。

高学年（5・6年）は、学年ごとに取り組みました。「知らない間のできごと」という話から、よりよい友達関係について考えを深めました。自分が送ったメールが知らない間に変わって回っていて、相手を傷つけてしまうというお話です。

グループに分かれて、付箋を使ってよりよい友達関係を築いていくために大切なことについて話し合いました。仲良くするだけでなく友達のことを思う気持ちも大切であるということに気付くことができました。



<明親小学校 人権学習の取組 「心の広場」>



月ごとにテーマを決めて、全学年が同じテーマで道徳及び社会の学習、または学級活動で取り組み、その時間に学んだことを掲示板「心の広場」に掲示し、児童集会で作文発表をして交流しています。

今年度も4月「生徒指導」5月「憲法月間」6月「男女平等教育」9月「総合育成支援教育」10月「みんなが笑顔になるために」11月「人権集会」12月「道徳」1月「外国人教育」の取組を進めました。作文発表も、全校で交流し、考えを深めています。発表者の作文を聞いて、低・中・高学年で発表の視点に沿って感想を交流したり、自分と比較したりしながら考えたことを全体の場で発表します。



<咲かせよう 「Happy Flower」>

今年も全学年でよいところ見つけに取り組みました。友達にしてもらって嬉しかったことや言ってもらって嬉しかったことなどをカードに集め、学年ごとに廊下に掲示しています。

定期的に更新される「Happy Flower」を、子どもたちが足を止め、じっくりと読む姿が見られます。他学年の嬉しかったことを知る機会になっています。

【子どもたちの Happy Flower のカードより】



九九を教えてもらいました。とってもうれしかったです。(若草学級)

ともだちがふでばこをおとしたときに、べつの友だちがひろってあげているのを見て、いいなおもいました。(1年)

ランドセルをしめわすれているのを教えてくれて、うれしかったです。(2年)



中間休みにトイレのスリッパをそろえてくれてとてもきれいになりました。それを見ていた私もいい気持ちになりました。(3年)

合奏の楽譜をわすれた時、友達が見せてくれました。友達のだれかが楽譜を忘れたときには、今度は私が見せてあげたいと思います。(4年)

大縄とびであまりとべなくて困っていた時に、まわりにいたみんなが「頑張れ!!」と応援してくれて、跳べたので嬉しかったです!! (6年)

体育の「ソフトバレー」の時に私が失敗してもチームのみんなが、「大丈夫!!」と言ってくれて嬉しかったです。(5年)

＜大淀中学校 人権学習の取組＞

「 1 年生人権教育 ―障害者理解について― 」

1 年生の人権教育は、障害者理解についてです。総合的な学習の時間とクロスカリキュラムで行い、11月、総合的な学習の時間に淀地域（明親小校区を中心に）のバリアフリーの施設やユニバーサルデザインについて調査し、この地域の誰しもが公平に過ごすことのできる街であるかどうかについて学びました。



人権学習の前半では、“正しい知識、正しい心のものさしを身につける”ために必要な知識や視点などについて学びました。固定概念が偏見をうみ、それがやがて差別につながっていくという差別の構造にも触れ、実のある学習ができました。

人権学習の後半では、ふれあいの杜館長の坂野晴男先生、車いすバスケットボール選手の山本英嗣さん、東武志さんを講師に招き、講演と車いすバスケットボールの体験会を行いました。思い通りに動かない車椅子に生徒たちは自分の足で立ち、歩けることに感謝している様子が見受けられました。最後に山本さんの講演、交通事故により車いす生活を余儀なくされることになり、その時の絶望感や無力感、そこからリハビリをして、車いすバスケットボールができるようになるまでのお話を熱心にされていました。生徒たちの感想にも「当たり前に行っていることに感謝」「車いす生活の方にも優しい社会が必要」など様々に感じる事ができた素晴らしい学習の時間でした。

「 2 年生人権教育 ―外国人差別について考える― 」

2 年生では、「外国人差別について考えることを通して、多文化共生を探究」ということをテーマに学習を進めました。今回は、日本とかわりの深い、韓国・朝鮮との関係について、まずは歴史的背景を学び、その間にある問題に目を向けました。次に、サッカー日本代表だった李忠成選手の葛藤について考えました。二つのアイデンティティーの間で、どちらも大切に思い、悩んだ末に日本国籍を取得、代表となった彼の心の揺れを追うことで、私たちにとって国籍とは何かということを考えることができました。最後は、京都市の開晴中学校で活躍されている李大佑先生に話をして頂きました。李先生がこれまでの人生の中で経験されてきた理不尽な差別やそれらに対して思った疑問。李先生はストレートに子どもたちに話してくれました。実直な李先生の人柄やその話に、生徒らも感じる事が大きく、良い気付きと学びとなりました。



「 3 年生人権教育 ―同和問題・部落差別について考える― 」

3 年生は同和問題・部落差別についての学習を行いました。

事前に公民の授業で部落差別を扱うことがあり、その時に部落差別の歴史に触れ、部落差別がなぜ起きたのか、同和問題とどのような関わりがあるのかを学習しました。

人権学習では、様々な施設を地図の中に配置して自分だけの町づくりを行い、自分の意識の中に嫌だと思うものやイメージが悪いと思うものを遠ざけてしまうという事に気づくことができました。その後、実際に部落差別に立ち向かった全国水平社の西光万吉、同和問題に立ち向かった京都市立中学校の人権劇などの学習をし、今もなお残る差別の問題点やこれからの社会に生きていく一人としてどのように過ごしていくのか、何が大切なのかを学びました。